第 22 号 H.30.1.15
滝沢地域振興協議会 生活福祉部会

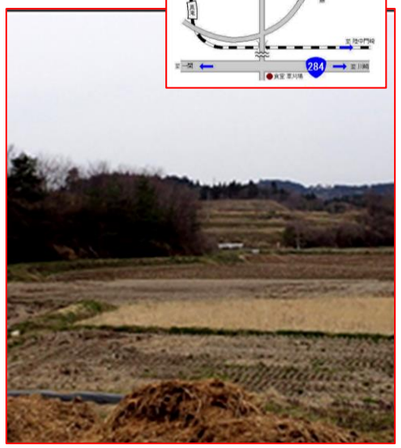
滝ちゃんのかわら版

移動市長室　2016. 7. 12

滝沢地域振興協議会発足後と勝部市長との間で意見交換会が何度か行われています。

私たちの住んでいる滝沢地区では一般廃棄物処理施設や国際リニアコライダー(ILC)などが大きな話題となっています。勝部市長は、特に一関市とその周辺が建設候補地になっている ILC のゆくえによっては、滝沢地域が市の中心部と候補地との中間の位置にあることから、将来的に発展を見込める地域と言及しています。

一般廃棄物処理施設に伴う滝沢の振興策？



今、私たちの関心事に一般廃棄物処理施設の建設問題があります。

一関行政組合では狐禅寺地区を候補地としていますが、狐禅寺地区の住民の賛否は依然として大きく分かれています。候補地とされる場所は狐禅寺地区に建設するといっても私たち滝沢地区にとっては地区の境界に隣接するところにあり、滝沢地区の問題でもあるのです。

組合の説明では処理施設建設の還元措置として世代間交流や地域間交流のための場所を併設し地域づくりの拠点にしたいと考えています。施設は市民として生活に欠かせないものであり、滝沢地区にとってもインフラ整備の面から地域づくりを考えるチャンスでもあると思います。

国際リニアコライダーと滝沢

国際リニアコライダー(ILC)計画が一関を基点とした北上山地が候補地となって久しい。世界に初めての直線巨大加速器の実験台をつくり、宇宙誕生の謎を探るというものですが、医療やセンサーなどを中心とした分野で革新をもたらすという。この計画ができれば世界中から研究者や働く人たちが訪れ住むようになり、経済活動も活発となり地域が潤うようになるといいます。産業集積が乏しく、過疎に悩む一関市にとっては大きな期待を持たせる大プロジェクトになります。

市では、その受け入れ態勢を整えるため、市民や小中高生に対し計画の概要の説明を進めています。この ILC 計画の動向を注視し、この地域に悔いのない資産を残したいものと考えています。

これからはこんなことも

12. 15(金)、陣の里で市内在住の中国・韓国の方を講師に迎え、ツーリズム受入れ登録者の方々を集め、両国の生活習慣などを学ぶ中韓文化研究会が開かれました。農山村の特色を生かした体験をしてもらうためのツーリズムです。過疎化が進む滝沢地域でも人々を呼び込む様々な工夫をしてゆく必要があるのではないでしょうか。

滝ちゃんのかわら版はスマホやパソコンで見られます。

284takichan.com

故郷を離れている人など滝沢に関心ある方にお知らせ願います。

～ 明るく住みよい滝沢をつくろう ～

第 22 号　平成 30 年 1 月 15 日
滝沢地域振興協議会 生活福祉部会

滝ちゃんのかわら版

年頭にあたって

滝沢地域振興協議会
会長　菊川 金美

新年あけましておめでとうございます。
今年も滝沢地域の皆々様のご健康とご繁栄を祈念申し上げます。

さて、東日本大震災という未曾有の災害から本年３月で７年になります。私たちの住む滝沢地域は国道 284 号線の真滝バイパス工事も影響を受けましたが、復興といううねりのなか、大被害の沿岸と内陸部を結ぶ重要な道路として大きな役割を果たしています。この国道を中心に滝沢地域も目まぐるしく環境が変化してきています。

当地域は平成 26 年６月、一関市より「滝沢地域振興協議会」として設立認可を受け、その活動拠点として一関市民センター滝沢分館がスタートし、町おこし・地域づくりの活動が地域と行政が同じテーブルで、そこに住む住民の目線に立ち様々な提案型の地域づくりが具体的に動き出しております。

昨年４月には市の指定管理を受け、従来の滝沢分館が自立した「一関市滝沢市民センター」としてスタートしました。本協議会の実績、これからの取り組みは以下に紹介します。

私たちはかねてより、「滝沢は一つ」横断的な取り組みが必要で「種(地域の課題)を蒔く」ことにより、やがて芽が出る、それをみんなで育てる。その活動を成すのが地域民全員参加が重要であります。

この度「移ろいゆく我が里“滝沢”」を特集、滝沢地域の出来事を改めて、直接住民に伝えるとともに、滝沢市民センターのホームページやスマホを通じ、かって滝沢に住んでいた人や広くこの地域に関心を持つ人々への情報発信、アピールの機会にしていきたいと考えます。

真滝バイパス　2012. 8. 7

基盤整備事業始まる！（第１期工事 ： 寺下、館下、寺田下、小林、大河原）

― 県営経営体 育成基盤整備事業滝沢地区工事 ―

課題であった滝沢川流域の基盤整備事業が岩本司氏をはじめ関係者の永年の努力が工事開始に繋がりました。本事業は、滝沢川上流の桂橋から下流の日影地区まで、3 年間 3 期に分けて総面積 55ha のほ場整備工事で、関連して道路の付替えや用水工事が行われるものです。そのうち第１期工事が昨年 11 月から本年６月にかけて寺下、館下、寺田下、小林、大河原の５地区(12ha)で進められています。

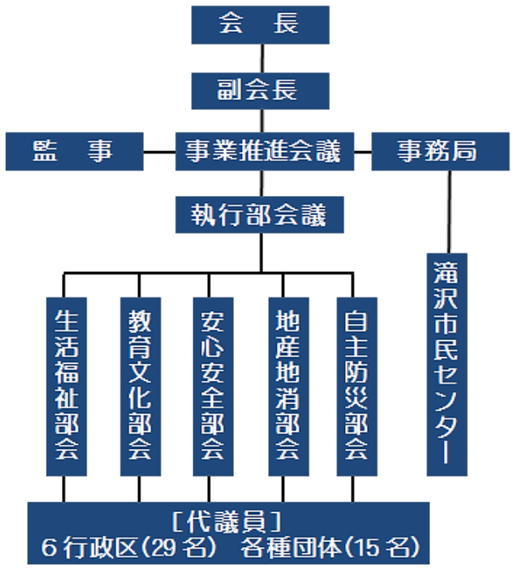
併せて市道狐禅寺大平雁田線の工事が昨年 9 月から始められています。磐井病院入口から東側に降り、真滝中央線と直接交差するよう東側に道路を延長するもので、そのための土盛りや新たな橋梁をかける工事も進行中です。

みんなで担ごう！ 魅力の滝沢 !!

滝沢地域振興協議会とは

平成 26 年 6 月滝沢地域の将来はどうあるべきかを考え、みんなで課題解決に向けて取り組み、この地域を「明るく住みよい環境」にしていくために「滝沢地域振興協議会」を発足しました。

滝沢地域振興協議会組織図



滝沢市民センターの課題

滝沢市民センターは昭和 58 年に農村センターとして農林水産省の補助金を受け建設され、34 年が経過しています。

市民センター化に伴い農業振興機能、集会機能に加え、社会教育機能と年間約 10000 人の利用者で、今後、介護予防、子育て支援機能、さらには災害時の避難所として、多岐にわたり利活用が必要と考えます。

しかしながら地域づくりの活動をさらに展開するためには延床面積が 370 ㎡弱で市内の市民センターとして借地の上、最も狭隘な施設であります。

一関市の人口減少が著しいなか、当地域は近年市内では唯一ベットタウン現象で人口も横ばいを推移しています。市では公共施設の再配置を検討しており、再配置の上でも、公共施設の有効活用やサービスの維持向上に向けた機能を持つ複合施設の設置を求めていく必要があるものと考えます。

いろんなことをやっています！

滝沢市民センターを拠点に滝沢地域振興協議会やセンター自身の事業など地域を考えた事業が充実し、一関公民館滝沢分館時代に比べて利用者が増えています。地域住民のための溜まり場として着実に発展していることは喜ばしい限りです。

生活福祉部会
- デジカメ教室
- 滝ちゃんのかわら版発行
- 古道巡り
- 男の料理教室
- キリシタン塚を巡るウオーキングと講演会
- 門松づくり

教育文化部会
- 滝沢行事ごよみ発行
- 地域の達人発掘

安心安全部会
- 防災マップ作成
- 防災フォーラム参加

地産地消部会
- お盆用切り花販売
- 収穫祭（芋の子会）

自主防災部会
- 水防訓練参加
- 消防防災講座開催
- 避難所開設訓練

その他の事業
- 滝沢女性教室
- 第1回滝ちゃんにぎわい祭り
- 滝沢カフェミーティング
- 滝沢探検隊
- 生涯学習
- 子育て支援
- 地域づくり講演会
- 移動市長室　etc

市民センター駐車場整備

永年の課題だった駐車場 28 年 1 月に完成し格段にセンターが利用しやすくなりました。駐車台数 45 台、面積 2043 ㎡です。滝沢地域振興協議会が関係者との交渉のうえ解決した大きな成果でした。

併せて駐車場内には他にも防火水槽の設置や滝沢お宝マップの大看板も建てられ、地域のために役立てられています。

市道木ノ川線歩道設置工事

市道木ノ川線は片側 1 車線の幹線道路で、通勤通学道路として通行量も多くまた、滝沢小学校から木ノ川方面には歩道がなく、交通事故が絶えない状況にありました。

地域住民より、2007 年 11 月以来、再三に亘って歩道の設置を市建設部に訴え、さらに、2014 年 8 月に滝沢地域振興協議会より、勝部修一関市長に「改善要望書」を提出、ようやく年次計画に組み込んでいただくこととなりました。

滝沢小学校入り口から市道山田木ノ川線交差点までの 1.7km 区間に歩道を設置することとし、2017 年 4 月 4 日（工事着手は 5 月 8 日）に着工しました、只今、工期約 5 年 2022 年頃の完工予定で年次計画に沿って工事が順次進行中です。

「滝沢児童クラブ(H31. 4)」「放課後子ども教室(H30. 8)」新設へ

昨年春、50 周年記念を終えた伝統ある真滝児童館（昭和 59 年 10 月建築）が老朽化し、装いを新たにして滝沢児童クラブ、放課後子ども教室として施設を滝沢小学校西側藤棚付近に新築、生まれ変わることになりました。

○滝沢児童クラブ（市が民間に委託）・・・・・月額 7000 円（減免あり）
共稼ぎなど留守家庭の滝沢小に就学している児童、定員 80 名、職員 4 名で生活習慣・学習の支援のお世話をします。

○放課後子ども教室（市が滝沢地域振興協議会に委託）・・・・・無料（滝沢小に通うすべての児童に体育館・校庭の一部を開放、定員なし）（木曜日のみ）

滝沢児童クラブ新設予定地

現在の真滝児童館